



M 神浦港。ここは江戸時代は富江藩領だった。



K 平家落人伝説の『船隠し』の場とされる火山地形の入り江。



I くだらかな坂道の向こうには海が広がる。晴れているととっても素晴らしいのだが。



I 下りの後には必ず上り坂がある。苦しみ後の爽快感を期待してペダルを踏む。



H 悲恋話の伝説がある三島神社の大ソテツ。



G やがて道の向こうに白い灯台が。草原では牛がのんびりと草を食べている。

コース21 宇久島をぐるりサイクリング

『三浦大ソテツ』を見て、幹線道路に戻った。それから火焚崎まで一気に走る。自然の地形をそのままに活かしたゴルフ場の『平原草原』が左手に広がり、向こうに海がある。火山地形の海岸は『船隠し』と呼ばれ、平家落人伝説が残されている。軽快にペダリングとばかりはいかない。下りあれば上りがあるのは道の常。やがて神浦の漁港に着いた。宇久島にもう一つある古い漁港だ。それからまた汗を流し、喘ぎながら坂を上って平港をめざした。

もう一つの浜、島の人が自慢する『大浜海水浴場』へとペダルをこぐ。突き出した岬に挟まれた自然の浜が美しい。緑の岬に自転車を停めると、風がやさしく頬をなでた。道を戻って北上する。登り坂もあるけど下りは爽快そのもの。風を切って進んだ。一本道は『対馬瀬灯台』へと続く。草原の道を並んで走る。脇では牧歌的な風景のまま、黒い牛がのんびり草を食む。突端にある白い灯台は、まさに一幅の絵だ。

朝10時35分、鯨瀬発のフェリー『なるしお』に乗る。穏やかな海を渡って午後1時に宇久平港に到着。その日は漁師町を歩いて宇久の歴史を学ぶ。昔、海産物の缶詰工場だった建物を改装した『浜方ふれあい館』で地元の人たちと交流。採れたてのウニと魚で海鮮バーベキューだ。翌朝7時、平港をスタート。雨が降らないことを念じてペダルをこいだ。浜方の海岸を通り、墓地がある坂を登って丘を越えると、『スゲ浜海水浴場』が広がる。弓なりに砂を集めたスゲ浜は夏は海水浴客で賑う。

潮風を切って走る。島の自然が光る。



F 緑の丘陵に一本道が続く。



E 背後に見えるのは、宇久富士とも呼ばれる城ヶ岳(259m)。中世城跡を散策する山登りが楽しめる。



D 幹線道路に戻って坂道を上る。汗が一気に噴き出した。



B 10分もペダルをこぐと、島で一番大きな海水浴場のスゲ浜に着く。ここにある「カフェ&レストランもりた」はアットホームに旅人を迎えてくれた。



C スゲ浜の先にある大浜海水浴場。緑の岬で休みながら風景を楽しむ。



A 平港は宇久島の玄関口。港風景を臨みながらスタートした。



宇久島への旅
 宇久島の情報は宇久町観光協会です。旅行者をいつも温かく迎えてくれる。宇久町観光協会 ☎0959-57-3935
 佐世保から宇久島へは鯨瀬埠頭からフェリーと高速船が出ている。運賃や自転車の運搬など詳しくは九州商船(株) ☎0956-22-6161 にお問い合わせを。

鯨恵比寿 (堀川恵比寿宮)

平港から漁師町堀川の路地を歩くと、石の祠にカラフルに色付けされた鯨に乗った恵比寿さんが祀られているのが目につく。江戸時代、堀川には「鯨の山見」があったと言われ、当時の捕鯨漁の大漁と航海安全を願って、沖合にある古志岐島にお祀りする古志岐神社の向拝所として作られたものだ。素朴な恵比寿さんに心がなごむ。



ウォーキングメモ

ヒヨヒヨ祭り

旧暦6月17日の夜に行われる約三百年の歴史を持つ竜神祭。神浦港の殿島神社で行われ、別名「ひよひよ祭り」と呼ばれる。月が昇るのを見計らい、ご神灯で飾った漁船に子どもたちと神輿や笛太鼓を乗せて、「ヒヨヒヨ」と連呼しながら港内をまわる奇祭。漁民の大漁と安全を祈願する幻想的な夜祭りである。詳しくは宇久町観光協会(0959-57-3935)にお問い合わせを。



ウォーキングメモ